

令和4年度(2022年度)学校教育目標

学ぶ喜び、つながる喜び、働く喜びを実感できるチーム伊倉の仲間づくり



玉名市立伊倉小学校だより 第17号

伊倉小学校全校児童の 人権学習の成果を発信！ 人権なかよし集会



熊本県人権啓発
キャラクター「コッコロ」

— 11月25日、28日

標記集会では各学年等のいずれもが、質の高い発表ができたことに感謝です。

1年生は「くまくんはひとりぼっち」という読み物資料の学習を通して、伊倉小仲良し宣言文を、より身近なものとして捉え直すことができました。

2年生は「ぼくのランドセル」という読み物資料の学習から自分たちの学級での日々の言動や行動を見つめ直しました。そこからの話し合いを通して、みんなが仲良く暮らすためには自分の気持ちを伝え合うことが大切だと気付いていました。

3年生は「お家の人の仕事調べ」を通して、それぞれの仕事には違いがあるにしても家族のために懸命に働かされている貴い姿は共通だという気付きがありました。

4年生は「『できないこと』ないですか」という読み物資料の学習を通して、自分のことを深く見つめ直し、それを互いに伝え合うことで自分たちのクラスのよさを改めて実感していました。

5年生は6月の集団宿泊活動での「水俣に学ぶ肥後っ子教室」【注】を通して「水俣病をめぐる人権」課題について学びました。

【注】まず課題把握として「水俣病について」「環境について」事前学習をします。

次に、水俣市訪問学習（水俣市立水俣病資料館や熊本県環境センターでの展示見学や語り部さんからの講話）で情報収集を行います。

そして、現地で見聞きする中で思考・判断した学習成果を事後学習として表現、発信するという一連の学習活動です。

水俣病に対する正しい理解(差別や偏見を許さない心情や態度)や環境問題に対する関心(環境保全活動への実践意欲や態度)を育成する社会科や理科、総合的な学習の時間を相互に関連させて学ぶことができます。

6年生は「自分の未来をつくる旅」とした長崎への修学旅行を中心とした平和学習(講話、集会)で、戦争は最大の人権侵害であることを学び、その学びの成果を下級生にも分かりやすく発表しました。

伊倉ふれあいセンターでの「なかよし学習会」に参加している児童は「ぼく さびしかったんだ」という読み物資料で、自分の経験と重ね合わせて考え、異学年でも同じ学びをすることで一体感を深めました。

人権なかよし集会は特別活動の児童会活動のひとつ「異年齢集団による交流」です。これは「児童会が計画や運営を行う集会等の活動において、学年や学級が異なる児童と共に楽しく触れ合い、交流を図ること」が目的です。今回の人権なかよし集会は、それぞれの人権学習での学びを発表し合うことで、お互いに自らの成長を振り返ったり近い将来への見通しを持ったりできました。このような活動は、児童の「協力」「参加」「体験」を中核に据えることで人権に関する知的理解を深めるとともに、人権感覚を育成するために有効です。

本校の児童は各発表に対する返しの言葉を「共感して」「自分のこととして」「発表者が元気になるように」という視点を持って伝え合いました。

12月10日の世界人権デーを最終日とする1週間は人権週間です。本校の児童は各学年等の人権学習の成果を発信したり、返しの言葉を伝え合ったりすることで今後の学級・学校生活に対する自覚と自信、希望を更に向上させることができました。

◇本校ホームページも随時更新しています。伊倉小学校で検索